

＜特別セッション＞

大学における金融教育と金融“論”教育

立正大学 経済学部
林 康史

武蔵大学経済学部は、昭和 24 年 4 月に旧制武蔵高等学校の後身として設立された。開設時は経済学科だけであったが、昭和 34 年に経営学科が増設された。その後、1980 年代終わりに、①二つのコクサイ（国債、国際）化を背景に金融自由化の流れが進んだこと、②ストックの蓄積にともない資産運用への関心がさらに高まったこと、③ファイナンスの分野でノーベル賞受賞者が出るなど「金融」分野が研究領域としても著しく進化するとともにその認知度が高まるといった変化があった。このような変化を受け、平成 4 年 4 月に私立大学として初めて金融学科を開設した。金融学科は、金融業界をはじめ広く実業界での活躍をめざすには金融に関する専門的な知識と即戦力として役立つ実務的知識が不可欠であるとの認識のもと、金融学科では金融の視点から経済の基礎を学ぶとともに、実践的なファイナンス理論や金融制度などを深く学ぶことを目的としている。

現在、パーソナル・ファイナンス（PF）およびフィナンシャル・プランニング（FP）を中心とする金融教育が盛んとなっており、「金融」教育の高まりの“第二の波”が起こっているように思われる。

大学における PF 教育は、①対象学部を問わない金融リテラシーの教育を目指す授業、また、②学問対象としての PF 教育、さらには、③FP 養成のための教育が考えられる。パーソナル・ファイナンスの研究テーマは、金融論を家計主体からみたものであり、金融論の一部を構成するものと見ることも可能である。

こうした PF 教育といった“第二の波”との関わりを意識しつつ、経済・商・経営学部における「金融論」教育のあり方について、再考する。

武蔵大学で金融学会の大会を開催するにあたり、大学における金融教育と金融“論”教育をテーマとして特別セッションを設けることは、金融学会としても意義あるものである。